

2014年度 学校評価報告書（大阪聖母女学院中学校・高等学校）

学校目標 (園目標)	「世界の人々の心をつなぐ平和の天使」としての心の豊かさ、正義に基づく正しい判断力・コミュニケーション能力、国際的な視野を持つ女性の育成。	校長	西村佳也
---------------	--	----	------

重点目標	<ul style="list-style-type: none"> 大阪聖母の英語教育体制の再構築 海外研修その他の国際交流を基にした世界的視野の育成と国際感覚の醸成 学校行事、クラブ活動、ボランティア活動等を中心としたバイタリティと協同力の育成。
------	--

学 校 自 己 評 価				学 校 関 係 者 評 価		
年 度 目 標				年 度 評 価 (2015年3月7日現在)		
番号	大目標	重点目標	具体的方策	取組の成果	次年度への課題と改善	
1	建学の精神に基づく教育の徹底	大阪聖母の英語教育カリキュラムの再構築	<ul style="list-style-type: none"> 中高とも実践的な英語運用能力の育成と向上に重点を置いたカリキュラムで授業を展開した。中学生の授業ではZ会の6年一貫教材を柱にした授業展開、アウトプットトレーニングの一貫としてジャズチャンツ・NHK基礎英語を導入、授業内容の充実を図った。高校ではTOEFL junior対策の時間を高校1年生から学年全体に設定、高校三年生の総合の時間にネイティブ教員による社会情勢講義を導入した。 イングリッシュアワーは、受講条件(英検3級取得済み)をなくし、受講意欲のある生徒ができるだけ多く受講できるようにした。 	<ul style="list-style-type: none"> 中学1年生でのアウトプットトレーニングは、英語の授業の流れの中で定着しつつあり、英語耳・英語脳育成および積極的な英語による発言に効果が出始めていると思われる。高校生はこれまでスーパー英数コースのみにTOEFL junior対策の時間を設定し受験機会を設けていたが、高校1年生からは学年全体で取り組むこととしたので、自分の英語運用能力を世界レベルで意識する生徒は増えたと思われる。 イングリッシュアワーでは、show and tell等のグループワーク、パソコンのタイピングレッスン、マンツーマンディスカッション等を導入し、普段の授業では扱えない分野を学べる場となった。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒のアンケート結果から、授業での「読む・やりとりする・発表する・聞く・書く」のバランスが後退した実感を持っており、読む・書く・聞くの分野での授業内容の充実と英語運用能力のさらなる向上にむけ検討を進めたい。 イングリッシュアワーでは、受講条件をなくしたことで受講機会が拡大し受講人数が増加した反面、受講生徒の意欲・目的に大幅に差が生じた。また個々の生徒のペースにある英語能力の開きが大きくなり、授業の充実度および満足度が低下した。次年度は運営方法を見直し、当初の設定目的である英語運用能力の向上にむけたプログラムをさらなる充実をはかるとする。 	<p>今回、生徒用・保護者アンケートの質問を、自分自身あるいは自分の娘について、実感をもとに回答できる文言に変更して実施したことで、従来より正確な実態把握に努めていることがうかがえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 進路に関する企画や働きかけ 授業 小テストや再テスト、宿題、補習 読書の時間 <p>読書の項目については、生徒自身の主体的な取り組みとして有益なものとなっているか、検証が必要。小テストは事後フォローが大切。女子はコンスタントに課題に取り組んだり小テストを実施したりしながら、力の定着を図ることが有益。小テスト等で見えた弱点をプラスに変えられる指導を行なうことが大切。</p>
		国際感覚の醸成と世界的視野の拡大	<ul style="list-style-type: none"> フランス語スピーチコンテスト出場 タイ小中学生の学校訪問受け入れと交流会の実施 フランスノートルダムデュムードン校の生徒のホームステイ受け入れと学校全体での文化交流 海外研修制度の充実とむけた検討 	<ul style="list-style-type: none"> フランス語選択者への積極的参加のよびかけ、および出場者への指導により、フランス語選択者の学習意欲向上を果した。 タイ、フランスの方々との交流では学校全体としての交流会のほか、各クラスに数名ずつタイ、フランスの方々をお迎えし交流会を実施したことで、密接な交流が果たされた。文化の違いをいかにして超え交流を深めるかを、実体験として学ぶ機会となった。 	<ul style="list-style-type: none"> スピーチコンテストでの入賞を果たすための指導のあり方等を再検討する。 フランス、タイそれぞれの学校が、今年度新しく交流を持つことになった学校であるため、今後の交流のあり方をさらに密度の濃い、意識レベルの高いものとしていくため双方で検討を続けたい。 	<p>教師と生徒の距離感については、双方での受け止め方に開きがある。原因を確認することが必要。</p> <p>今年度に入って通学路を歩く生徒たちの表情や話している様子が明るく元気になったと感じている。生徒たちの学校生活の満足度・充実感に変化が出ていることがよく分かる。また、通学路で下校指導に立つ教員の姿が見られるのは、学校の姿勢が感じられてよいことだと思う。</p>
		宗教教育を基盤に据えた、つながる心・人間力・広い視野を育てる教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 朝の祈りの時間を前教員で毎日交代で担当した。また、週一回聖書朗読の日を設定した。 タイ隊の活動、あしなが学生募金、テスト最終日の通学路清掃や福祉施設への訪問を継続して実施した。 人権に関する講演会(沖縄基地問題に関する映画鑑賞とそれに関する講演)の実施。 中1、2「マナー講座(小笠原流礼法)」継続実施 中1「緑の教室」継続実施 中2「赤ちゃん先生」新規実施 中3「コミュニケーション講座」「福祉学習」継続実施 生徒会主催「リーダーズトレーニング」「学校環境整備計画」の実施 中3「雅楽教室」、高II「文楽教室」、高I「歌舞伎鑑賞教室」の継続実施 学校行事の企画、運営を委員会や生徒会を中心に実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒のみならず、教員全体の祈りに対する意識向上が果たされた。 ボランティア活動への参加人数が大幅に増加した。 様々な環境のもとに生きる仲間について考えと視野を広げることができた。 中学生の総合の時間やロングホームルームでの活動は、それぞれの学年の発達段階に応じた内容となっていて、それぞれの生活や将来計画等ともリンクさせて考えを深めることができた。 生徒会がリーダーとなって行なう諸行事や、企画の実践は、執行部員はもちろん、全校生徒のリーダー性を発展させることに大いに役立った。 中3、高I、高IIの本物の日本文化に触れる取り組みにより、教科内での知識の上に実体験から生まれる感慨が加わり、わが国の文化に対する造詣を深められた。 生徒が学校行事を企画、運営することでリーダーシップ、協調性、協同力の育成が果たされた。 	<p>学内行事や年間の活動計画の中には、従来から継続して取り組んでいる活動が多くある。そこにプラスして、各学年の成長に応じたさまざまな取り組みが新たに付け加わることになり、生徒も教職員も過密なスケジュールを「こなす」という感覚で取り組むことになりやすい。常に一つ一つの活動の意義を明確にし、その意義を十分に果たす活動となるように意識を持つ必要がある。また、従来からやっているから、ということだけで設定するのではなく、次年度の活動計画を練る際、学年の教育目標に効果的に近づけていける内容を組み立てられているか、確認していくことが必要だと思われる。</p>	<p>宗教教育、心の教育の項目からは、自分の生き方や心の持ち方を学校生活において考える機会が多くあると感じている生徒・保護者も多くなっている。宗教の時間や宗教行事を、キリスト教的考え方や価値観を深めるためのもの(知識として学ぶためのもの)という捉え方ではなく、むしろ学校生活の一部・精神性の基盤として捉える傾向が強まったのかもしれない。「より良く生きる」「共に生きる」「人のために生きる」ための心の教育が見える形にまで昇華されること大切。祈りを通してそれを味わうことができれば、さらによいのではないかと、宗教教育を、宗教科のみに限定せず他の教科内で反映させるチャレンジもよいのではないかと、小・中・高12年一貫の宗教教育の良さのひとつは、小さいときに聞いた「聖書の中の一つの物語」が、大きくなった自分の精神性や生き方の中に見出されることにあるのではないかと。</p>
		自学自習習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> 年間6回以上の個人面談を実施、ベネッセの学力推移調査(中学)とスタディーサポート(高校)をもとに学習習慣の確認や改善をアドバイスした。 ルミエールノート(中学) 能率手帳(高校)を活用した、自立的・自律的学習習慣の管理を担任主導でサポートした。 放課後と長期休暇中に自学自習教室を開設。 	<ul style="list-style-type: none"> 個人面談では各教科担当からのアドバイスも反映させた総合的な指導を実践できた。 ルミエールノートや能率手帳に書かれた内容から、学習活動の状況が把握でき、適切な学習習慣確立にむけたアドバイスやサポートができた。 高校生を中心に、継続して自習教室を利用する生徒が増加。 	<ul style="list-style-type: none"> ルミエールノート、能率手帳の活用指導の徹底が必要。単なるスケジュール帳ではなく、自分のゴールを設定しそのゴールから逆算してスケジュールを組み実践できるよう、決め細やかな指導が実現できるよう、教員間の情報交換を密にする必要がある。 	
2	教育・指導の充実	教職員の指導力、スキルアップにむけた研修会の実施	<ul style="list-style-type: none"> いじめに関する研修、人権に関する研修、宗教研修、ICT教育研修等を開催した。 	<ul style="list-style-type: none"> 教職員の各分野に対する理解が深まり、教育活動に反映させることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ICT教育をはじめとする先進的な取り組みを進めていくにあたって、早急に設備の拡充が必要である。 	
		各教科の指導体制の再構築	<ul style="list-style-type: none"> 授業参観週間の設定。 	<ul style="list-style-type: none"> 学年単位での学びの体制と教科としての学びの体制の相互の関係が効果的であるかを確認。 	<ul style="list-style-type: none"> 各教科、学年の指導の流れの再構築にはいたっていないため、次年度も継続して再構築にむけた検討を行なう。 	
3	財政の健全化	入学者の安定的確保	<ul style="list-style-type: none"> 各種イベントや入試説明会で本校生徒の姿を積極的に伝え、カトリック教育・女子教育の魅力を積極的に発信した。 	<ul style="list-style-type: none"> 各入試イベント来場者数が前年度比2～6倍となり、中学校では昨年度の約2倍、高校においては約1.2倍の入学者を確保することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 入学者は昨年度に比べると改善したものの、定員割れの状況は続いている。来年度も継続的に女子教育の魅力を、多角的に発信していけるよう、広報手段を検討したい。 	
4	環境の整備	耐震工事の完了	<ul style="list-style-type: none"> 耐震工事は延期となったため、最優先課題となっていたトイレの改修工事を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> トイレの個室の洋式化と掃除のしやすい材質・デザイン、また校舎全体の雰囲気と合わせた色調での改装が実現できた。 	<ul style="list-style-type: none"> 国の諸施策に伴う工事費用の高騰から耐震工事は来年度に延期となったが、安全にかつ安心して学校生活が送れるよう来年度で実施したい。卓球室の書庫対策工事、トレーニングルームの空調設備設置も含め、生徒の安全快適な学習環境づくりを進めたい。 	
5	一体感の醸成	保護者会との連携	<ul style="list-style-type: none"> 入試広報活動において、保護者会の方から直接受験生の保護者に話していただくなど、多大なご協力をいただいた。 保護者の方々、同窓生の方々から本校教育や学校活動に関する情報を積極的に発信していただき、入学者を増やすことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 中学、高校両方での入学者増を果すことができた。 保護者会学年委員の方々の活動が活性化し、保護者間の結びつきや信頼関係が深まり、同時に、学校の教育活動への理解を深めていただくことにつながった。また、保護者学年委員の方が学年親睦会を主催いただいたことで保護者の方どうしの情報交換の場が増えた。 体育祭、聖母祭等の行事で同窓会のお店を出店いただくなど、(経済面も含めた)諸々の活動補助をいただき、在校生と卒業生の交流が深まった。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業公開、学年会等、学校からの情報発信の場を増やし、学校での教育活動の様子にふれていただく機会を増やしていきたい。 	
		同窓会との連携	<ul style="list-style-type: none"> 入試イベントや進路指導イベントで卒業生に講師を務めてもらうなど、同窓会・同窓生との連携を深めた。 高校卒業生の入会式、成人式の実施を通して、同窓生としての責任や誇りを心に強く持つことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 体育祭、聖母祭等の行事で同窓会のお店を出店いただくなど、(経済面も含めた)諸々の活動補助をいただき、在校生と卒業生の交流が深まった。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路指導イベント「職業インタビュー」での講師募集について、同窓生全体への発信協力を依頼し、さらに幅広いインタビューができるよう検討を重ねたい。 	
		地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> 保護者会(ボランティア部)を中心としたクリーンキャンペーンの実施。 定期考査最終日ごとの生徒による地域の清掃活動や、近隣の福祉施設訪問。 六中校区PTAの当番校としての責務を遂行。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の方々との交流機会と来校者数を増やすことができた。 寝屋川市役所の方々との連携が深まり、本校への親しみを増やしていただくとともに、地域に根ざした学校としての役割を従前より多く果たせるようになった。 六中校区のPTAの方々を中心に、近隣の方々から従前よりも気軽に声かけをいただくようになり、地域の方々からの声を教育活動に反映させることができるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> 不審者情報等を六中校区で共有し、子どもたちの安全を守る取り組みを強化したい。 歩道通行時や乗り物の中でのマナーを意識し、通学路で近隣の方々にご迷惑をかけることのないよう、また安全に登下校できるよう、生徒への意識啓発を強化したい。 	
		カトリック香里教会との連携	<ul style="list-style-type: none"> 香里教会のクリスマスイベント等に、生徒、教職員が参加した。 宗教研修や聖書の集いを実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> 教会や教会に来られる信徒の方との交流を深めることができた。 教会主催イベントで生徒の活動する姿を直接見ていただける機会が増え、学校教育への理解を深めてもらうことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 教会主宰のイベントへの参加者は特定のクラブや生徒にとどまっている。さらに積極的に多くの参加が実現するよう、働きかけていきたい。 「聖書の集い」の日程を年間行事予定作成時に決定しておき、多数の参加を可能にしたい。 	